



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2008年4月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '08 9/14 神通研集会報告⑤～

☆「より良い交流を目指して

手話サークルでのコミュニケーション」

- ・『今日はよい天気です』とあったとき、『よい天気』という情報とその人の気持ちという2つのメッセージがある(例: 明るい声・明るい手話で表したときと、暗い声・暗い手話で表したときとは気持ち異なる)。情報と気持ちをつかまなくてはコミュニケーションは成立しない。相手の気持ちをいかにつかむかが大切。
- ・「手話サークル」はコミュニティ。聴こえる人、聴こえない人がいる。日本語と手話という言葉がある。お互いの立場、考え方の理解が不足すると気持ちのズレが起こり、誤解、遠慮、トラブルなどの問題が起こる。

◎サークル班が考える「手話サークル」

○役割

- ・交流を通して生きた手話に学ぶ。手話を学ぶ＝手話技術だけを学ぶ場所ではない。
- ・ろう者問題の理解を深める。

○コミュニケーションの視点から

- ・聴者とろう者双方を尊重する場
- ・会員がお互いに意見し合える自由な場
- ・覚えている単語の数や手話技術を競わない場

◎サークルでのより良いコミュニケーションの取り方とは?

会員それぞれが好き勝手に活動してはサークルは成り立たない。

- ・目的、活動内容、ルール、マナーを確認し、文章化、共有化、意識化することが大切

～ 定例会 '09/3/29 (日) ～

神通研集会の内容について話し合いました。分科会「手話サークル」は手話を始めたばかりの人でも参加しやすいものにしていきたいと思えます。サークルの様子、悩み等の意見交換と、「災害」に関する情報の発信、災害時のコミュニケーションの取り方について行う予定です。

雑談の中で、薬の注意書きに「そのままお飲み下さい」とあったとき、包装ごと飲んで食道に引っ掛かってしまった話。同様に座薬を座って飲むこと、食間を食べている間と勘違いしている人もいるとの話がありました。知っていて当たり前はないという考え方が必要ですね。

【次回定例会】

4/25 (土) 12:10～14:00

県民活動サポートセンター 701

～サークル研究班メンバーのささやき～

今日は主人と散歩。お花見に出かけました。満開までにはあと一歩、でもそれくらいがちょうど見ごろと私は思います。

途中でビールを買って桜の木の下でちょっと一杯(^^;; 日本人で良かった!!と実感。桜や菜の花、他にも色々な花が咲きいろんな発見もできました。

最近はなかなかゆっくり散歩はできなかったけれど、今日は良い一日でした!!

ペンネーム Anko